

コロナと涙と男声合唱団と JAMCAと

日本男声合唱協会事務局 曾我雄司

◇ 最初に

日本男声合唱協会(JAMCA:じゃむか)事務局の曾我と申します。機関誌「じゃむか通信」の原稿依頼が私のメイン業務なのですが、この度、加藤良一さんより「おんがく広場」への寄稿を「逆依頼」されました。この立ち位置の新鮮さに感じ入りながら、日本男声合唱協会およびコロナ禍の中での取り組みについて、書いてみたいと思います。

◇ 日本男声合唱協会(JAMCA)とは

日本男声合唱協会は、日本の男声合唱活動の振興に寄与する事を目的として1971年に創設されました。当初は国内の男声合唱団5団体の連合で、2年に一度持ち回り演奏会と交流を持つのみでしたが、1997年からは全国の男声合唱団に呼びかけた結果、現在では団体・個人会員を合計して全国に約90の会員を有する組織となりました(加藤さん所属の男声合唱団コール・グランツも加盟されています)。

全国各地でのJAMCA演奏会(理事幹事団体の演奏、会員参加の全国合同演奏等を行う)の開催、情報の提供を目的とした「じゃむか通信」の発行、webサイトやfacebookなどによる情報発信、男声合唱資料のリファレンス、楽譜およびCDの出版などを行っています。



◇ 「じゃむか通信」における取り組み

JAMCAの各種業務を扱う事務局は、名古屋の東海メールクワイアーが現在担当しております。私が編集を担当する「じゃむか通信」は、会員向けに年4回発行する機関誌です。JAMCA演奏会の情報を軸に、連載記事(東混の松原千振先生の「男声合唱考」など)、会員の皆様の動静、委嘱作品の紹介や演奏会案内などの記事を掲載しております。

コロナの拡大を受けて、88号(6月上旬発行)では、全会員にアンケートを実施、全国の男声合唱団の状況を集約・掲載しました。もう少し細かく書きますと、4月中旬に各団体の【練習について】【演奏会について】【他団体への質問】をお聞きし、

このうち【他団体への質問】については取りまとめて、5月上旬に全会員にお聞きし、6月上旬に通信を発行いたしました。

◇ コロナ禍での活動状況

3月から練習を中止し4・5月と中止が継続となっている合唱団が多いこと、9月ごろまでの演奏会については延期・中止の方向で動いている合唱団が多いこと、演奏音源の送付などで対応している団体が多い(ZOOMなどの活用はあまりされていない)ことなどが傾向として確認できました。とある学生の加盟団体からは「新歓をどうしているか」という(おじさんには難しい)質問がありましたが、大学と関わりの深い会員に個別にお伺いして回答を伝えるなど、小回りを利かせた対応も(こっそり)してみました。

現在89号(9月上旬発行予定)に掲載するアンケートを実施しています。この原稿を書いている時点でいただいたお返事のうち、約半数はまだ再開できていないとのこと。中部では7月、関東では8月から再開したという回答が見られます(ちなみに早い所では、6月再開との回答もあります)。マスクなど基本的な対策の実施、少人数での練習実施や休憩多めに入る短時間練習の実施などの工夫をしていることも寄せられています。



◇ 最後に

「じゃむか通信」は会員に対して紙媒体で送付されます。ゆえにその情報はリアルタイムとは言えません。ただ会員の多くは平均年齢の高い団体が多く、SNSなどで他団体の情報を知ることができない(発信できない)ことが多いです。ゆえに全国各地の団体の活動状況や悩み・アイデアを共有できたことは有益だったと思われます。コロナ禍で自分たちの活動ができない中、各団体の様子が分かったことで今後も頑張ってみようという励みとなったというお葉書をいただいたときには、非常にうれしく感じました。

一度、JAMCAのwebサイト👉をご覧ください。

<http://jamca.web.fc2.com>

また会員はいつでも募集中です。興味をお持ちになった方はぜひ!

【編集部よりひとこと】

日本男声合唱協会は、1973年に日本で最初に男声合唱大会を開催した団体です。詳しいことは「全国主要男声合唱大会総覧」👉にまとめてありますので、ご覧ください。

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/>